

# 初めての L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X

神戸 太郎

平成 20 年 7 月 17 日

## 1 背景

これは L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を初めて利用する人への簡単なサンプルです。

## 2 基本

文章はつらつらと書けば良いです。改行は無視されるので見やすい位置や、ちょうど良いところで改行入れて書いていきます。

改行を入れたいときは改行を 2 連続 (つまり一段あき) で入れます。字下げを伴わない強制改行は `\\` (日本語フォントだと `¥¥` と画面には見える) と書きます。するとこうなります。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の命令は `\(¥)` で始まります。ちなみに L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と表示する命令は `\LaTeX` です。大文字小文字意味があります。

単体命令を文章中で用いるときは命令の後に `"\LaTeX とは"` の様に半角スペースを入れて命令と文章を区切ってください。このときの半角スペースは改行と同じで無視されます。

## 3 箇条書き

箇条書きはブロック命令の `itemize` を利用します。つまり、`\begin{itemize}` と `\end{itemize}` の間が箇条書きになります。それぞれの項目は単体命令の `item` を利用します。`item` は箇条書き系のブロック命令でしか利用できませんので注意しましょう。

- 箇条書き一つ目のアイテム
- 二つ目のアイテム

`itemize` を `enumerate` に変更すると番号付きの箇条書きになります。余裕のある人は試してみましょう。

## 4 数式

数式は (1) 式のように記述することができます。行中でも  $\vec{Y} = \frac{1}{4}\vec{X}$  の様に書けます。

$$S = \oint f(r) dr \quad (1)$$

このとき Word のように勝手に行間がずれたりはしません。ソースをみていただければわかりますが、別行で書くときはブロック命令 `equation` を利用します。行中では `$y=ax$` のように `$` と `$` で囲みます。<sup>1</sup>

## 5 図

図 1 に示すように、EPS 形式の図を挿入することができます。EPS 形式の図を作成するには OpenOffice.org などのフリーソフトウェアを利用することができます。

図を挿入するには `graphics` または `graphicx` パッケージが必要です。これらのパッケージはプリアンブル (今回の講義では「ヘッダー」と呼んでいます) で読み込みます。

<sup>1</sup>脚注はこのように書けます。命令は単体命令で `footnote` です。



図 1: 図のキャプション

## 6 まとめ

めちゃくちゃ手抜きですが、最初のサンプルはこれで終わりです。あとはさわってみて少しずつ覚えていってください。